

ITトレンド情報誌
[月刊アイティセレクト]

☑ 西和彦氏の次なる一手は「手が届くコンピューター」

IT SELECT

IT Trend Magazine for Every Business People

2001.10 定価 680円

サン、マイクロソフト、IBMの
直近決算に潜む
真の実力

MBAから各種資格取得まで
最新eラーニング
バイブル

読書の秋・話題の14冊
あのIT本の信憑度

IT時代の
健康相談 e病・悪い病

総力特集

加熱する市場の未来は？
事例と今後の動向を徹底研究

IP電話は会社を救うか

表紙が変わりました

IT **セレクト**

袋
とじ
特別
付録

ウォールストリートジャーナルなど
世界の最先端ニュースが
その日に日本語で読める
オンライン情報サービス (CRNet)
2000円相当の
無料試読パスワードを収録

21世紀大予測! この秋に読む3冊

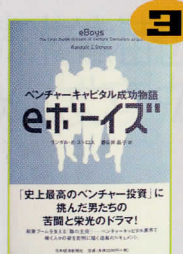
いつまでも「かつて」描かれた未来図にこだわってはいられない。過去の経験と同じくらいに「これから」の洞察も大切だ。チーズの話だけでは分からない、ITの未来予想図。この3冊で自分なりの見取り図を描くのだ。



「藤田田社長が高橋徹教授にIT特別講義を受ける」
藤田田×高橋徹
KKベストセラーズ 2001/5



「インターネット的」
糸井重里
PHP研究所 2001/7



「eボーイズ」
ランダル・E・ストロス
日本経済新聞社 2001/6

1 ITを学ぶとともに、なぜか身に付く営業テクニック

2 21世紀はオイシイか? フイトイ的時代予測

3 ベンチャーキャピタルの虚実から見える日本の未来

株式公開で話題を呼んだものの、自身の個人企業への経営指導料、ファミリー企業経由のポテト調達と、かえって暗部を照らす結果になったマクドナルド社長、藤田田がITを学ぶ一冊。

「4時限 IT革命の先陣をきって何かやれることはないですか?」では、ITコンサルタントが老企業家を強引に丸め込んでいくような展開が興味深い。この本から将来の外食産業の動きが透けて見える。「ITコンサルタントの実録! 営業マニュアル」として読むと面白いかも。

バス釣りや埋蔵金探しに飽きたか糸井重里。「おいしい、生活。」をインターネットに見出したのか、IT本まもののした。

語るのはあくまでも「インターネット的」。インターネットではない。「リンク」「シェア」「フラット」をキーワードに、分かりやすくイトイ式に解説する。『インターネット的時代』は誰もが自由に平等に意見を述べうる社会。「立候補」することが重要になってくるという。「立候補」なんて言葉のセンスが「イトイ的。」

ネット景気よ、もう一度! と言わんばかりの成功物語。イーベイやレッドハットなどに出資したベンチャーキャピタルの話だ。

原著の刊行はネットバブル崩壊前とはいえ、「ベンチャーキャピタル投資には常にブームとその終焉というサイクルが付きまといつていた」と、バブル再来が期待できるような一文も。ネットバブルに踊ったビジネスマンの実録物語として、不況ニッポンのビジネスマンに反面教師の一冊となるか。

耳に音楽、目に映像、そして頭には読書が必要だ!

西和彦の読書のススメ

稀代のベンチャー起業家にして、読書家である西和彦氏。蔵書は4万冊、ひとたび書店におもむくと100冊を超える書籍を買うこともあるという西氏に、ビジネスマンにとって読書とは? なにを読むべきか? いつ読むべきか?

本選びで大切なのは
目次・あとがき・まえがき

西 近著の「ITの未来を読む365冊+α」にもありますが、西さんは大変な読書家らしいですね。雑誌も入れれば月に100冊は読みます。多いときには、単行本だけで100冊くらいいつ

しまうこともあります。

西 そこまでたくさんの本を読むのは、純粋な知的
好奇心からでしょうか?

西 ではないですね。本を読まなくとも仕事ができるのであれば、べつに読まないですけど。胃袋には食べ物がいるんです。それと同じように、耳には音楽、頭には読書が必要なんです。生き

西和彦●にしかずひこ

1956年生まれ。兵庫県出身。早稲田大学卒業。大学在学中に株式会社アスキー出版設立。米国マイクロソフト社副社長などを経て、現在はマサチューセッツ工科大学メディアラボ客員教授。情報学博士。

ていくために。

西 たくさんの本を読むとなると、選ぶだけでひと
苦労だと思つたのですが。

西 右脳と左脳って言うでしょう? ロジカルな左脳と、感覚的な右脳。本を選ぶときは右脳です。私が本を選ぶときは、まず、目次。これを見ます。それから、あとがき・まえがき・著者の経



歴の順かな。

あとがきはどんな点に注意して読むんですか。

これは本を書いた人にしか分からないかもしれないけれども、手抜きが、ついつい本音が出るんです。手抜きして書いた本には手抜きしたあとがきがつくし、いい本には必ずあとがきに「頑張った」と書いてある。

では、まえがきは？

まえがきは自慢ですよ。「おれはこんな本を書いたんだ。さあ見ろー」と。だからまえがきとあとがきがどれだけ一貫しているかということも大切です。

オリジナリティだけでは限界 ライバルの動向に目を配れ！

いまでは蔵書も1万冊を超えたと聞きましたが、ちよつとした図書館ですね。

西 数えたことがないけど、3〜4万冊はあるでしょう。本がなくてもできる仕事もあるけど、本をたくさん持つていなければできない仕事というのがある、ありますよね。ビジネスマンには、両方必要だと思います。どんなにオリジナリティ

溢れる人でも、オリジナリティだけではアンパ

ランスです。「ライバルのやっていることがなか」ということを認識する必要があります。1千人か1万人か、他にも同業者がいたら、その人たちがやっていることも勉強しないといけない仕事はできないですよ。

いつごろから読書にのめり込むようになったんですか。

西 アスキーを始めたころからかな。また早稲田(大学)にいたころですね。ただ、やっぱりこの10年……90年代の前半にエスカレートしましたね、ブルが吹っ飛んでお金がなくなつて、それまでは本を読むよりお金を使うのに忙しかつた(笑)。ペントレーやNSXみたいなスポーツカーに乗つたり、ヘリコプターに乗つたりしてました。

西 経営環境の悪化が読書に拍車をかけたんですね。そうではないです。時間ができて考えるようになったせいでしょう。とくにインターネットのおかげです。インターネットを使うと、仕事が早く片づくんです。少なくとも1日2〜3時間は得してる。で、その得した時間で本を読むことができるわけです。

IT本を鵜呑みにしない 汗を流して情報を得よ！

西 とはいえ、今でも大学での講義やアスキーの特別顧問、須磨学園の理事長……読書の時間を確保するのは難しいと思うのですが。

新幹線や飛行機の移動時間の車中と、ベッドの中が読書時間ですね。単行本に関しては2週間、いっぺん買いに行つて、「新しく仕入れた本」というコーナーに、積み上げる。ベッドの脇なんですけどね。そこで一冊づつ手に取つてみる。そこで決めるわけです。シッカリ読む本とバラ

バラ読む本と。

西 ビジネスマンにオススメの本はありますか。

古本ですね。大きな本屋に行つても手に入らない珍しい本、古い本。インターネットに慣れると、情報の入手がもの凄くラクになってしまふんです。サーチエンジンにかけてクリック、クリック、クリック、クリック……。誰でも簡単に欲しい情報を入手できてしまふ。そんな時代だからこそ、誰もが簡単には得られない情報、汗を流して足で歩いて情報を得ることが大切です。それで、差をつけるのです。

西 今後は何をされるんですか？

ボストンのMITでの研究が中心になります。エンジニアとして10年、経営者として10年。そう考えると、あと10年は学者・教育者として過ごしたいと思っています。それに、今年中にはMSXのソフトウェアエミュレーターと4000本のソフト・ライブラリを公開できるように準備しています。

4万冊の書庫から生まれたIT本・書評集

西和彦
ITの
未来を
読む
365冊
+
α

西和彦、
ITで、未来、
何年か先まで
読む本として
「ITの未来」
をまとめた。

西氏の膨大な読書量に裏付けされた「ITの未来を読む」書評集。本との関わりについて「本を読んだ」20代、「本を書いた」30代、「本を評論した」40代と振り返る、西氏の40代の総決算。雑誌連載当時とは他名義で執筆していたため「西和彦」についての客観的な記述もあり。

「ITの未来を読む365冊+α」
日経BP社 1,600円